

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

年 月 日

| | | | | |
|---------|----------------------------------|-------------|-----|-----------------------------|
| 学 校 名 | | 奨学金 交付年度 | | 年度 |
| 氏 名 | H25 | | | |
| 留 学 期 間 | 平成 25 年 3 月 29 日 ~ 26 年 1 月 28 日 | | | |
| 留 学 先 | 国 名 | アメリカ | 学校名 | Shoreline Community College |
| 専攻 | English | | | |

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

留学生活が始まったばかりの時は何もかもが新鮮で毎日が新しい発見の日々だった。私はホストファミリーとの生活のため、そのホストの家のルールをしっかり守れるように注意した。しかし当たり前であるが、到着した当初は英語も完全には分からず、ホストが言っていることを勘違いして認識したいたことも幾つかある。私がここで言いたいのは分からなかったり自信が無い時は、恐れず相手に聞く方が良いということである。聞かずに後から大きな問題になるよりはもう一度丁寧に言ってもらおう方がずっと良い。

次に私の留学生活であるが、とても充実したものとなっていると私自身感じている。私の留学生活は少し他の留学制度とは異なっており、ESLの授業はみんな日本人の学生と受けている。しかしそれは私はあまり良くないと考えており、一般の大学のESLに入れるチャンスをいただき、そこに3ヶ月いることができた。それは私にとってとても良い経験になり、このシアトルと一緒に留学に来た他の日本人学生とは違う経験を出来たと感じている。

私は現在、専門学生であり日本ではホテルについて学んでいる。そのためこの留学生活で得た経験をホテルに就職した後、大いに活用したいと思っている。こちらで得た経験の例を挙げると、世界各国に全く異なる文化があるということである。日本には日本独自の国民性や習慣があるように、こちらアメリカにもアメリカ独自の国民性や考えがある。特に私は日本とアメリカは正反対と違って良いほど違うと感じている。ここシアトルでアメリカのことを大いに学ぶことができ、とても嬉しく思っている。私はこの経験をもとに、ホテル業界で外国のお客様とのコミュニケーションを円滑に進めたいと考えている。日本の考えを押し付けるのではなく、お客様の母国の考えを尊重し、より良いサービスを提供していきたい。さらには後々には外国のホテルで働き、日本の良さも普及していきたいと考えている。

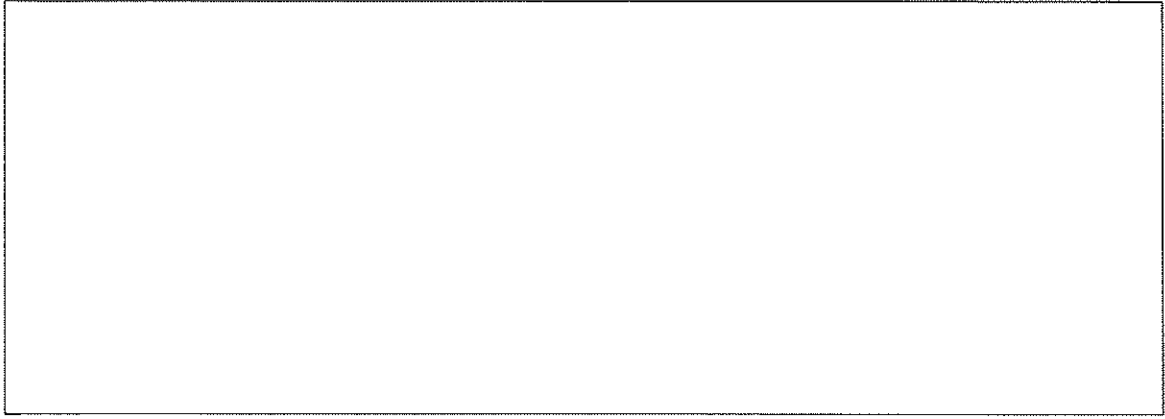
シアトルの英語というのとは、とても聞き取りやすいと私は感じる。一歩他の州に出て英語を聞くとは全く違ったアクセントであったり州もしくは街によっても異なってくる。単に英語を話せる、聞き取りができるようになりたいと考えているだけでは、本当に英語を理解できたということにはならないと思う。その国の母国語を話したいということは、それと同時にその国の時代背景、文化を学ぶということになる。だからこそ留学というのは奥深いと思ふ。ここシアトルに来てから早6ヶ月が過ぎ、残り4ヶ月も無い留学生活の1日1日を大切に過ごしていかなければならない。帰国するギリギリに後悔しても遅いのである。だからこそ日本ではできないことをたくさん経験するべきだと私は思う。

私は特にこの留学生活においてアメリカ国内をたくさん旅行した。日本から行くより断然安いからである。もちろん、単に観光名所を巡るのが目的ではなく、その地域の人々との交流も楽しみに旅行をしていた。アメリカは特に色々な国の文化が集まっている国でもある。だからこそ自分が生活している街から一歩出れば、全く違った習慣などに触れることができる。それは自分にとってとても良い経験であり、とても貴重なものであると思う。留学に来るのを少し迷っていたがアメリカに来て良かったと感じている。自分の中の視野が広がり、よりポジティブな考えを持つようになったと私自身確信している。さらには日本という国を第三者の視点から見ることができ、日本の良さはもちろん、直さなければいけない点も見ることができた。だからこそ日本に帰った後は、私は日本人の良さを最大限に活用し、悪い点は改善していくように努めていきたい。

さらには私はこの留学生活で一番大きく得ているものは人との出会いである。毎日のように新しい人と出会い、関係が深くなっていく。それにつれて私自身の知識も比例して増えていくのである。自分とは全く異なる生活を送る人々との出会いというのはとても興味深いものであると私は感じる。だからこそ私はより一層ホテルで働きたいと感じた。なぜならホテルにはたくさんの人々がやってくる。一人一人違った目的を持ってホテルにやってくる。そしてサービスを通して私はそのお客様の人生や性格を少し共有することができる。これほど素晴らしいことはないのではないだろうか。留学生活最後の日まで悔いのないよう過ごしていきたい。

最後に私はこれから留学しようと考えている方たちに言っておきたい。留学目的は人それぞれ違うし、全く同じ人はいないと思う。日本人の一人として自分に、日本に誇りを持って欲しい。今まで日本人として何も考えたことがない人も、別の国に長く滞在することで自然と日本について何かしら感じると思う。それを日本に帰国した後、決して忘れないでほしい。その経験こそ、後の人生においてとても重要なものになっていくと思う。様々な事情で留学に行くか決めかねている人もい

と思うが、せつかく行くチャンスがあるなら少し無理をしても行くべきだと私は思う。行かず後悔するより行って後悔しない生活を送るように努力する方が何倍も良いと私は感じている。そして私自身、残りの留学生生活を1日1日噛み締め、日本に自信を持って「ただいま」と言えるように帰りたい。日本で私を待っている家族、友達に意味で「変わった」と言ってもらえるように努力していきたい。



※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。

